



図書館から学校にすすめる あたらしい本

令和元年10月
出版分(12冊)

◆◆◆ えほん ◆◆◆

小学1年生～

『おおゆき』

最上 一平／作 鈴木出版 1400円 ISBN978-4-7902-5389-1

ゆうきとだいきは雪国に住んでいる。大晦日の夜、今年もたくさん雪が降って、家の前は大渋滞。車に乗っている人はトイレに行くこともできずに困っていた。ゆうき達は家族や近所の人達とともに困っている人たちを助ける。「なんぎしているときは、おたがいさま」の心で働く人びとの姿を描く。心温まる作品。

『わたしねこがかいたいの』

ミシェル・ロビンソン／文 岩崎書店 1400円 ISBN978-4-265-85156-0

「ねこがかいたいの」と願う女の子の話。猫を飼う準備はしても、肝心の猫が来ない。そこへおばあちゃんの家の猫へクターが町中の猫を連れてきた。家の中はネコだらけ。どうなってしまうのだろうか。意外な展開に思わず笑みがこぼれる。表情豊かな猫の絵も見逃せない。見返しまでたっぷり楽しめる。

『せかいいちしあわせなクマのぬいぐるみ』

サム・マクブラットニィ／文 徳間書店 1600円 ISBN978-4-19-864960-9

メアリーはお小遣いをためて、クマのぬいぐるみを買う。「ウーウー」と名付けて大事にしていたが、ある日、メアリーはウーウーを置き忘れてしまった。その後、ウーウーはさまざまな人のもとで過ごし、最後は……。60年後のクリスマスが近づいたある夜、奇蹟が起こる。細部まで丁寧に描かれている絵が魅力的な作品。

◆◆◆ フィクション ◆◆◆

小学5年生～

『中ぐらいの幸せの味』

みとみ とみ／作 国土社 1400円 ISBN978-4-337-33642-1

小学5年生の盛太郎の家は商店街にある中華料理店。父が怪我をしたため、お店は大ピンチを迎える。幼馴染のすずはすすんで店を手伝うが、盛太郎は何もしない。そんな中、お店には次々と問題が生じ、ついに盛太郎は動き出した。高齢者問題、商店街の衰退等、世相を反映している部分もあり、興味深い。子どもの視点で解決策を考えていくところが共感を呼ぶ。

『クレンショーがあらわれて』

キャサリン・アップルゲイト／作 フレーベル館 1400 円 ISBN978-4-577-04830-6

5年生のジャクソンが浜辺でサーフィンをする猫に出会うところから物語は始まる。その猫はジャクソンにしか見えない想像上の友達だった。3年前、ジャクソンはその猫に出会い、クレンショーと名付ける。クレンショーは「呼ばれたから来た」と言う。食べものに事欠く貧しい暮らしの中であって不安を募らせるジャクソンだが、両親は本当のことを言わない。重いテーマの作品だが、ユーモラスなクレンショーの存在で救われる。今、子どもの貧困は社会問題となっている。子どもには解決の方策は見つけれないが、大人は子どもにどう接すべきかがこの作品によってよく分かる。

小学6年生～

『今、空に翼広げて』

山本 悦子／著 講談社 1500 円 ISBN978-4-06-516878-3

小学1年生から6年生の通学路班の話。上級生4人の視点で語られている。それぞれの悩みや家庭の問題が子どもの目線で丁寧に描かれている作品。ただ一緒に通学するメンバーとしてだけでなく、お互いに仲間として心配し合う仲に変化していくところが良い。そんな子どもの姿から親も変わっていった。319ページの大作だが、見た目よりさくさく読める。

中学生～

『蝶の羽ばたき、その先へ』

森埜 こみち／作 小峰書店 1400 円 ISBN978-4-338-28721-0

中学2年生の結は、ある日突然、左耳が聞こえなくなる。周囲には隠していたが、症状が悪化したため母親に告げて病院に行ったところ手遅れだった。突発性難聴となり絶望する結。彼女がさまざまな人々との出会いから前向きに生きていこうとするまでの姿を描いた作品。タイトルの「蝶のはばたき」は健康な耳が聞こえる最小の音とのこと。

『フラミンゴボーイ』

マイケル・モーパーゴ／作 小学館 1500 円 ISBN978-4-09-290627-3

イギリスの青年ヴィンセントがフランスでロマ（ジプシー）の女性ケジアとフラミンゴが大好きな自閉症の男性ロレンゾに出会い、2人の過去を聞くという構成の作品。第二次大戦下、2人の住む南フランスにもドイツ軍が攻めてきた。ケジアの両親は捕えられてしまうが、ケジアは難を逃れ、ロレンゾの住む農場で暮らすことに。さまざまな困難を乗り越えた2人の姿が描かれている。フラミンゴと話ができるロレンゾのピュアな心が胸を打つ。戦争をテーマにした作品としても薦められる。

小学4年生～

『マンボウは上を向いてねむるのか マンボウ博士の水族館レポート』

澤井 悦郎／著 ポプラ社 1400円 ISBN978-4-591-16351-1

幼い頃からマンボウの魅力にとりつかれた「マンボウ博士」の著者は、2017年に海外の共同研究者とともに、世界にマンボウが3種類いることをつきとめた。変わり者だった子供時代からどのようにしてマンボウの研究者になったかが詳しく描かれている。著者の生き方から、好きなことに夢中になれる素晴らしさが伝わってくる。この本を読むと、水族館にマンボウを見に行きたくなるかもしれない。

『食品ロスの大研究 なぜ多い?どうすれば減らせる?』

井出 留美／監修 PHP 研究所 3200円 ISBN978-4-569-78896-8

「食品ロスとは何か」「ロスを減らすためにはどうしたらよいか」「日本と世界の食料問題」の3部構成。食品ロスの約半分は家庭から出ているという。自分たちの身近な問題ととらえて、考えていかななくてはいけないことである。環境（ゴミ）問題の学習時にも使える資料。グラフ、挿し絵、写真も多く、分かりやすい。

小学5年生～

『お札に描かれる偉人たち 渋沢栄一・津田梅子・北里柴三郎』

しぶさわえいいち つだうめこ きたさとしばさぶろう
 楠木 誠一郎／著 講談社 1400円 ISBN978-4-06-517030-4

2024年（令和6年）にお札に描かれている偉人達の肖像画が変わる。1万円札が渋沢栄一（実業家）、5千円札が津田梅子（教育者）、千円札が北里柴三郎（細菌学者）になる。3人ともただ偉人だからという理由ではなく、日本の人々の為に日々努力し行動した人物だからこそ選ばれたのだ。激動の明治の時代を生きぬいた偉人達の人生、日本の社会に与えた影響がこの1冊でよく分かる。

小学6年生～

『わきだせ！いのちの水 日本伝統の上総掘り井戸をアフリカに』

たけたに ちほみ／著 フレーベル館 1500円 ISBN978-4-577-04797-2

日本に古くから伝わる井戸掘り方法の上総掘りかずさを利用し、アフリカやケニアなどの貧しい地域に井戸を掘った大野篤志さんの話。ただその場限りの水を与えるのではなく、その後も現地の人たちが自立していけるにはどうすればよいか、悩みながらも奮闘する姿が描かれている。本当の支援とは何かを示す作品。